

平成28年度 新宿駅西口地域地震防災訓練実施報告

③西口現地本部訓練

2016年12月14日

新宿駅西口地域地震防災訓練検証会

工学院大学建築学部 村上 正浩

訓練の目的

- ◆ 西口現地本部運営訓練(工学院大学2階)
- ◆ 滞留者誘導のための情報共有訓練(新宿駅西口→4号街路地下道→新宿中央公園(避難場所)→角筈区民ホール(一時滞在施設))

- ① 西口現地本部の役割を知る
 - ・事業者の情報交換の拠点
 - ・地域の応急救護の情報拠点
 - ・災害対応活動の支援拠点
- ② 西口現地本部運営手順を知る
 - ・本部立ち上げ
 - ・役割分担
 - ・各種情報の収集、共有方法
 - ・支援のマッチング
- ③ 新宿ルール実践のための行動指針及び手順書の実効性の検証
 - ・行動指針及び、現地本部を中心として整合がとられた関係拠点の行動手順書の検証

昨年度訓練での課題と今年度訓練での主な改善点

平成27年度訓練の課題の要点

考えられる対応策 (マニュアル・訓練計画へ反映)

赤字:今年度の改善点

現地本部で判断する内容には、重責の差があり、内容によっては、判断することの困難や不安がある。

- 西口現地本部の役割と責任の範囲の明確化→**手順書の作成**
- 「To Do List」の作成→**様式の見直し**

現状の発信手段(伝令、優先電話)が限られており、西口現地本部に有益な情報が集まっても、事業者に向けて十分な情報発信ができないのではないか。

- 西口現地本部と事業者間の情報連絡手段の整備、多重化
→**MCA無線の利用**
→**エリア対応支援システムの利用**
- 災害時優先電話による情報連絡網の作成と情報伝達訓練の実施(未)

近隣ビル同士の連絡をどう取るか。

- 「情報共有ボード(仮称)」の設置
→**本部情報ボードの設置**

西口現地本部が把握する情報が多岐に渡ることから、情報の取捨選択や外部向けの情報の示し方が難しい。

- 電卓、マグネット、ホワイトボード用ラベル、現地本部看板等の整備
→**備品の整備**

西口現地本部の備品の不備

2

新宿ルール実践のための行動指針

新宿ルール実践のための行動指針

- むやみに移動しない
- 現地本部を中心に連携する
- 地域で傷病者に対応する

在勤在学者向け

地域における、大規模地震等の災害対応の基本的な行動の考え方を広く地域の事業者向けに周知

各拠点等での詳細な実施事項をマニュアル等に整理

個別拠点等運営者向け

現地本部、避難場所、一時滞在施設等の運営者向けの、個別手順書を整備

来街者向け

来街者向けのチラシを作成し、ポスターやデジタルサイネージなどを活用して周知



新宿ルール実践のための行動指針



誘導
手
順
書

一時
滞
在
施
設
運
営
手
順
書

避
難
場
所
運
営
手
順
書

応
急
救
護
手
順
書

現
地
本
部
運
営
手
順
書

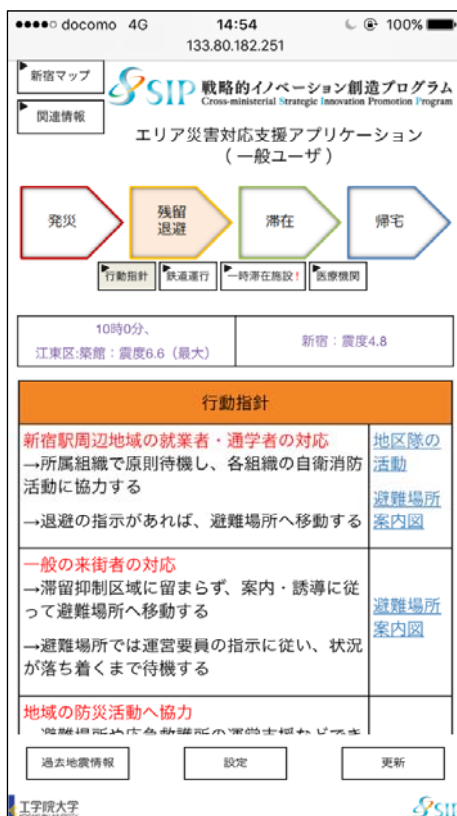
3

訓練参加機関等

西口現地本部 21名	帰宅困難者対策班	2名	新宿区2名 防災行政無線
	現地本部員 本部長 情報収集・発信班 情報整理・集約班 運営支援班、情報共有班	19名	事業者4名、新宿警察署2名、新宿郵便局1名、 工学院大学2名、東京都5名、その他1名、 学生4名(システム担当) MCA無線、防災行政無線 エリア対応支援システム
他拠点 12名	新宿区災対本部	1名	新宿区1名 防災行政無線
	角筈地域本部	2名	角筈特別出張所2名 防災行政無線
	東口現地本部	1名	新宿区1名 MCA無線、防災行政無線
	避難場所 (新宿中央公園)	5名	新宿中央公園管理事務所3名 学生2名(システム担当) MCA無線、防災行政無線 エリア対応支援システム
	一時滞在施設 (角筈区民ホール)	3名	学生2名(システム担当)、その他1名 MCA無線、エリア対応支援システム
滞留者 18名		18名	事業者3名、新宿警察署1名、新宿区2名、 その他1名、学生11名 エリア対応支援システム
運営スタッフ 20名	ファシリテーター	3名	新宿駅周辺防災対策協議会
	評価	1名	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
	運営支援	2名	新宿区区長室危機管理課、工学院大学
	事業者等タミー役	4名	工学院大学学生
	記録他	13名	工学院大学学生

6

エリア対応支援システム(一般の来街者向け画面例)



残留・退避フェーズでの来街者に求める行動



鉄道運行情報



一時滞在施設情報

7

訓練の流れ

フェーズⅠ【発災】

訓練前半(40分間)

- 西口現地本部の立ち上げ・開設
- 地域内ビル防災センターや関係機関との情報連絡・情報共有
- 滞留者の避難誘導先の情報提供

フェーズⅡ【残留・退避】

- 新宿駅周辺地域および広域の被災状況の把握
- 地域内ビル防災センターや関係機関への情報提供
- サイネージも活用した避難場所への誘導

フェーズⅢ【滞在】

訓練後半(40分間)

- 各施設の滞留者受入れ可否状況の把握
- 一時滞在施設情報の情報提供
- ボランティアや専門家の派遣に必要な情報の把握
- 物資や人材等の調整

フェーズⅣ【帰宅】

- 鉄道再開情報の共有
- 一時滞在施設の順次閉鎖
- 帰宅開始

8

訓練の様子(動画)



9

今年度の評価・課題等(アンケート、意見交換より)

- 訓練の満足度は高いが、訓練のわかりやすさの点では改善が必要
- 現地本部訓練が、現地本部の役割・機能の理解や災害対応のイメージづくり、災害対応力の向上につながっている

項目	課題・評価	改善案
手順書の作成	● 手順書を読む余裕が無かった。 ● 同じ班の中での役割分担が曖昧なままで同じ情報を2人で収集してしまうことがあった。 ● 状況の説明など協力体制や、役割分担などが把握できておらず、円滑なコミュニケーションをうまく取れなかった。	● 手順書及び(帳票類の)様式を使ったワーク、講習会(じっくり読み込む、考える) ● 班構成の見直し(本部長補佐、情報の集約と分析)
帳票類の様式の見直し	● ビル名や路線ごとにすでに枠組みを作っていたのは、わかりやすくよい。 ● 欄が限定されるため、2・3枚目の用意が必要。 ● 少々小さめだった。 ● マニュアルを掲示していただいたので書き方は分かったが、書くスペースは出来る限り広いのが良い。 ● 派遣・提供可能の増減の記入がまとまらず、確認しづらい。 ● 報告のとりまとめに時間がかかる。 ● TODOリストは全く活用されていなかった。	● 帳票類の様式の改善(余白の拡大、2枚目以降の扱い) ● 「報告様式」と情報の取り扱いの見直し ● 地図の活用 ● マッチングに関する記入方法

10

今年度の評価・課題等(アンケート、意見交換より)

項目	課題・評価	改善案
滞留者誘導	● 単純に新宿駅西口から、工学院大学、避難場所である新宿中央公園を経由し、一時滞在施設である角筈地域センターまで歩くのではなく、大型ビジョンやサイネージ、情報案内板の紹介、災害用トイレの体感などを取り入れたことで、滞留者役の参加者にとって考えることができた。 ● 滞留者が全員健常者であった。特にソフト面だけではなく、ハード面での課題も見つかるかもしれない。	● 土地勘を養うため地域資源を探す街歩き等の取組み ● 被災状況をイメージして頂いた上で歩く・日中・夜間、天候等を考慮した訓練 ● 高齢者や妊婦さん等の視点での確認(状況を体感できるキットを身に付けてつけ歩いてみる等。) ● 近隣の複数の一時滞在施設と連携して、選択できるような訓練
サイネージの活用	● サイネージの前後に柱があり見えづらかった。 ● 工学院大の前だけでなく多く用意して欲しい。 ● 同じ色、同じ形でたくさん用意できると大きさが小さくても良いのでは。 ● 中央公園までどのくらいの距離があるのかが明記されていると良い ● あらかじめ決められた内容しか掲示できない	● コンテンツの見直し ● 要所要所で連続した情報提供 ● 協力事業者の拡大と地域内での同一デザインによる情報提供
地図(チラシ)の利用	● 新宿駅周辺は、慣れない方だと、自分が地下にいるのか・地上にいるのか、また歩いてみると方向感覚・距離感覚がつかみづらい、ランドマークといってもビル自体が大きいので、よく分からない(視認しづらい)、可能性がある。	● 地図(チラシ)の改善(例:ランドマークの写真等はりつけ・英語表示、地上地下などの明確化、代表的ルートの強調表示)

今年度の評価・課題等(アンケート、意見交換より)

項目	課題・評価	改善案
MCA無線の利用	• MCA無線の使用はなれるまでの時間がかかる。訓練等を通じ、機械の操作、会話の仕方に慣れることが重要と改めて感じた。 • 本部の2台のうち1台が使用できなかった。 • 慣れない無線を使うことが困難であった。	• MCA無線の使用方法や無線での会話のルール(送信の始めに「了解」、終わりに「どうぞ」をつける)等まとめる。 • 無線機・連絡網を使った情報伝達訓練 • 地下電波対策
エリア対応支援システムの利用	• 情報を一括で見れるのが良かった。鉄道情報、一時滞在施設の状況などが分かりやすかった。 • ビル事業者がスマホから情報登録できるのは即時性があって良い。 • すぐにタイムアウトになってしまった。 • 受け入れ施設の収容規模がわかると良い。 • 直感的に使えるインターフェースの必要。 • 地図情報で自分がどこにいるかわかると良い。	• 事前説明がなくても使えるようなインターフェースへ改良 • 事業者の各ビルからの情報共有訓練

その他

- 新宿というターミナル駅には大量の帰宅困難者があふれるだけでなく、**外国人観光客、子供、お年寄り、さまざまなニーズに応える体制**をとる必要がある。
- **日頃からの情報共有と地域の連携**が必要(たとえば、備蓄・資材・人材の情報共有と融通など)
- **ビル単位で本部設営のための代表者を選任して、その方は、震災時は本部設営を最優先に**していただく仕組みがないと活動の拠点となることは難しい。